

中国山脈高天原楽園 第2報

○月○日

職員、学年全員でブッシュの刈取りに突進する。老生も青年の元気につられて久し振りに鉈を振う。曇天なれども風少し。流汗頻りなり。あとは大型機械がやってくれる。放牧地造成も楽になったものだ。

広々と開け行く大地を見るのは気持ちが良い。働きながら、それからそれへと限りない空想が湧くころ、期せずして学生の中に寮歌が流れる。

寮歌と云えば我々は旧制高校のなつかしい歌を想い出す。学徒の意気と希望を示した寮歌は当時の学生はもとより満都の子女を魅了したものだ。

大学校の校歌は知事さんが作詞されるので、私が寮歌を作った。

- 1、緑したゝる陽春に
 ジャージ遊ぶ蒜山の
 文化の香りいや高き
 学園したいて我は来ぬ
- 2、流れは清し旭川
 北斗の星座仰ぎつゝ
 固き決意の若人は
 誇りと栄を歌うなり
- 3、錦繡の影映ゆるとき
 偲ぶや故郷の秋の曲
 我感傷の夢追いぬ
 直理の道はいとけわし
- 4、神秘の白衣蛭が峯
 無限の光ほゝえみぬ
 われらが築きし酪農の
 久遠の城を来り見よ

「曲はどんなのですか」「ぐだぐだ云うな、気概に満ちて、而も純情な青年の曲であればよろしい。」旧三高の「紅燃ゆる」を拝借している。皆さん1つやってみて下さいよ。青春の血がもえますよ。その元気で国造りをやろうではありませんか。

○月○日

どやどやと何の予告もなしに訪問客が現われる。米国では予め訪問日時を先方に連絡しておかないと絶対に相手にされない。

訪問客曰く「学校の具合はどうですか」具合が悪かったら援助しようとするのか。通り一辺の言葉は聞きあきた。

更に曰く「学生はよく勉強していますか」を聞くに於いては噴飯ものだ。

もっとまともな日本語が話せないものかなあ、俺達は日本一を誇る酪農王域を建設しているんだ。大いなる抱負経綸を聞かして戴きたいものだ。

さんざん話を聞くだけ聞いて、何等の意見ものべず、かすかに東洋的な微笑（これが曲者ですぞ）をうかべて、高天原を去り行く人の如何に多きことよ。皆さんの楽園ではありませんか。しっかりして下さいよ。

今日も蒜山に静かな夜の帳が降りてくる。

そして神秘的な黎明の訪れと共に我々は次第に浄化されて行く。